

3. 住民ニーズの把握

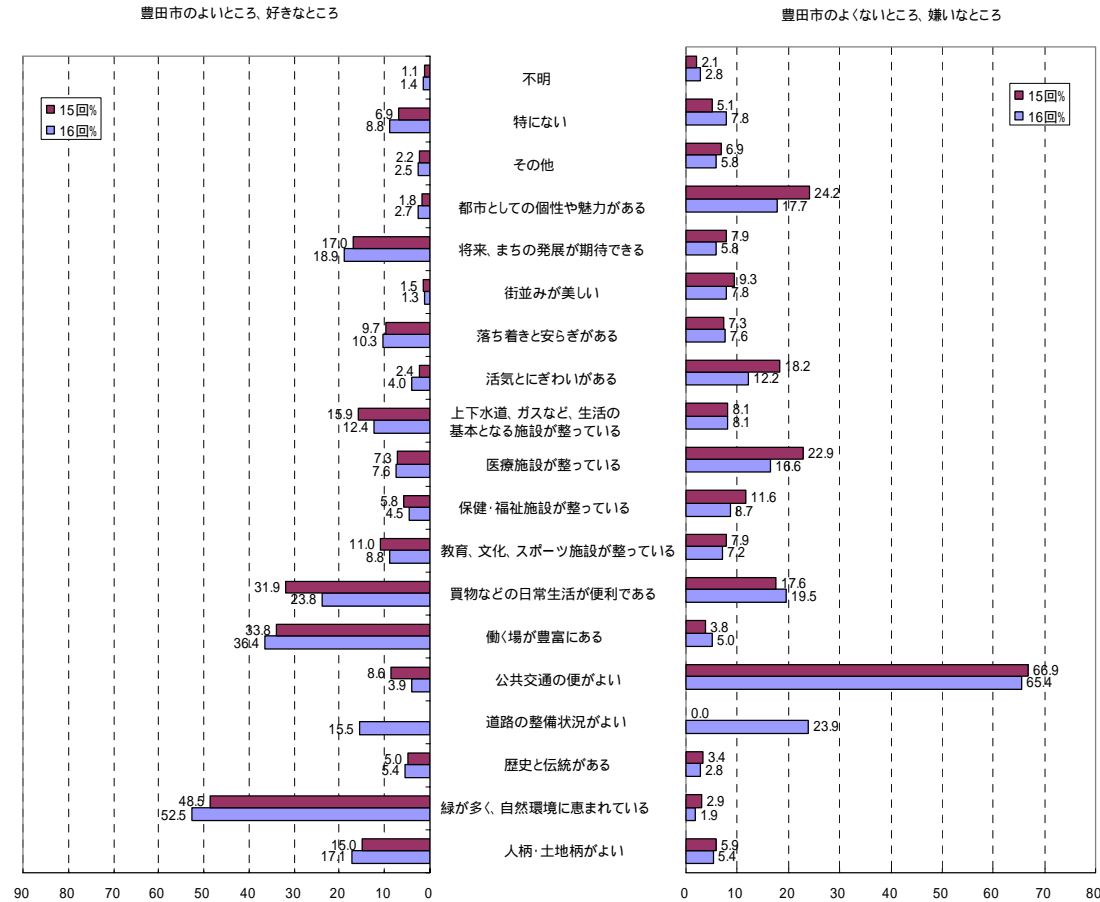
3-1 市民意識調査

旧豊田市市民意識調査（平成15年度調査＝第15回調査／平成17年度調査（仮集計）＝第16回調査）

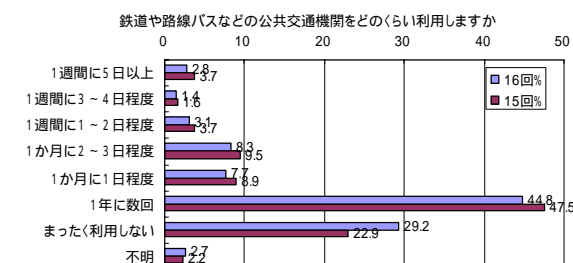
- ▶ 豊田市のよくないところ、嫌いなどとして「交通の便が悪い」が最も高い値を示している。これは、他の項目と比べても倍以上に高く、市民は交通の便に対して高い不満をもっていると考えられる。
- ▶ 鉄道・路線バスの利用は1年に数回の利用か全く利用しない人が多く、公共交通の利用が極めて低いことが伺える。
- ▶ 豊田市内の現在の公共交通については、不満と思う割合は高く、合併による交通不便地域の拡大によりその割合は増加している。また、現在の公共交通対策としても不満度は高く、今後の対策強化を望んでいる。
- ▶ 公共交通の利用促進のための環境改善方法としては、運行本数、路線新設・変更、料金改善、バス停数、運行時間帯の改善度が上位を占める。

豊田市市民意識調査：市内居住者約5000人（無作為抽出）に対して毎年実施しているアンケート調査で住民ニーズの把握や行政評価に利用している。なお、合併後の新市としての同様の調査を継続し、H17.10に実施している。

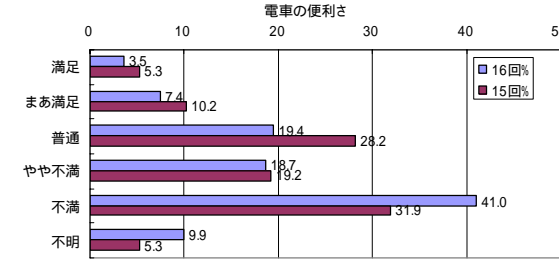
豊田市の印象



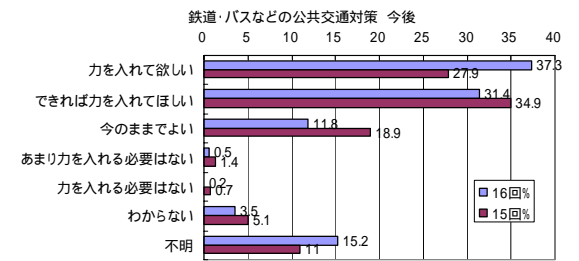
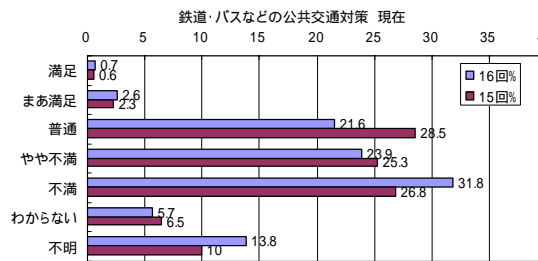
豊田市民の公共交通利用頻度



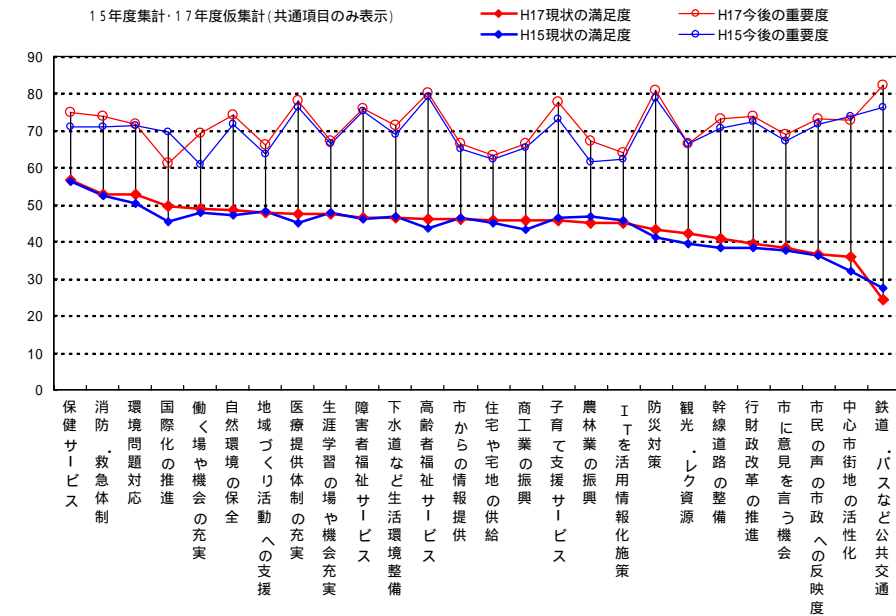
現状の公共交通の利便性



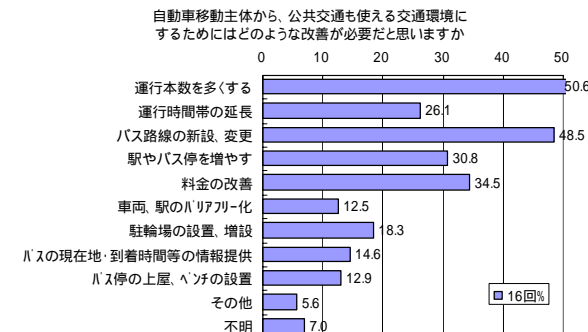
公共交通対策に対する市民意識



施策別の満足度と重要度の市民意識



公共交通利用促進に対する改善方法



3-2 市民の外出頻度

旧町村地域の人の動き調査から（拡大無し：実サンプル数集計による）

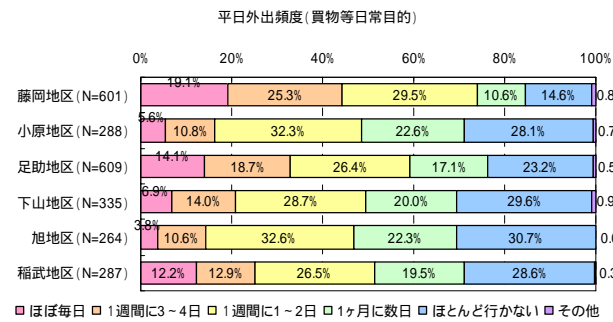
【通院目的】

- 全体的には1ヶ月に数回、もしくはほとんど行かないものが多いが、高齢者に限ってみれば週1~2日が17%と高くなる。

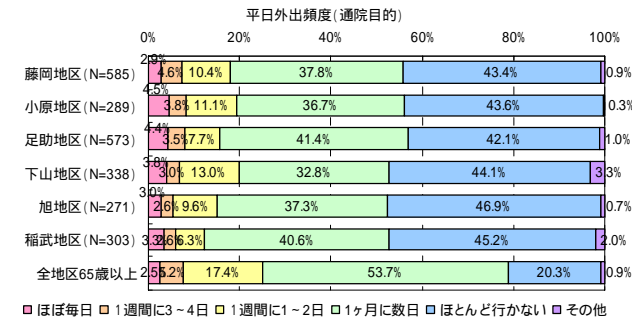
【買物・娯楽等】

- 平日では週2日以上割合が概ね50%を占める。
- 休日についてはほぼ毎週の割合が50%を占める。

買物・娯楽等の頻度（平日・休日）（旧町村地域）



平日通院頻度（旧町村地域）



バスの利用・非利用要因

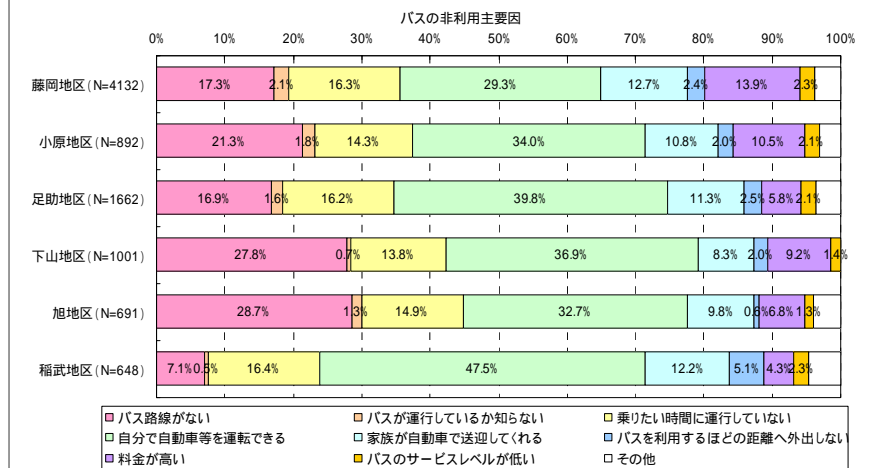
【バスの非利用理由】

- 自分で自動車を運転できることを理由にするものが最も多い。
- 料金も含めたサービスレベルの低さを理由にするものが20~30%程度である。
- 旧町村地域では路線そのものが無いことによる理由も多い。

【バスの利用理由】

- バスを利用する理由は、他の交通手段がないことによるものが半数程度を占める。

バスの利用・非利用理由（旧町村地域）



3-3 公共交通のサービス水準と住民意識

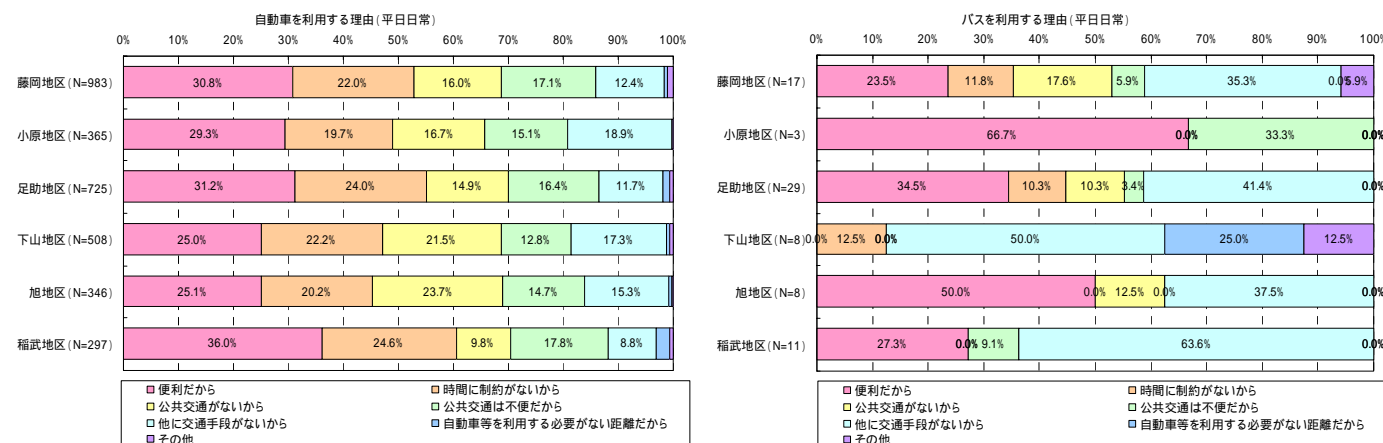
旧町村地域の人の動き調査から（拡大無し：実サンプル数集計による）

交通機関の選択理由

【平日の日常的交通】

- 自動車は自由度が高い理由から利用する割合が半数程度を占め、公共交通の不便さを理由にするものが30~40%である。
- バスを利用する理由については、便利であると感じるものと、他の手段が無いことを理由にするものに大きく分かれる。

交通機関選択の要因



バスのサービス水準要望（旧町村地域）

バスの利用・非利用者別サービス水準要望

【運行日】

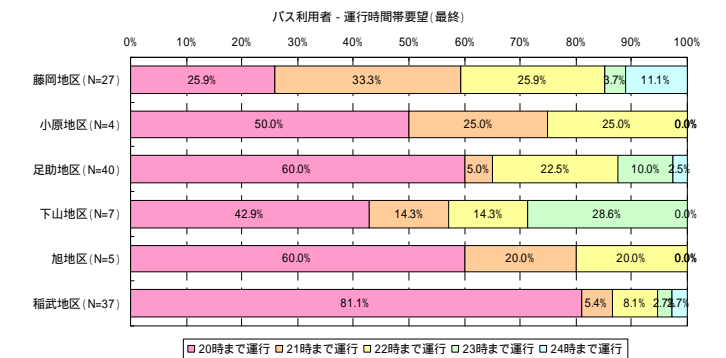
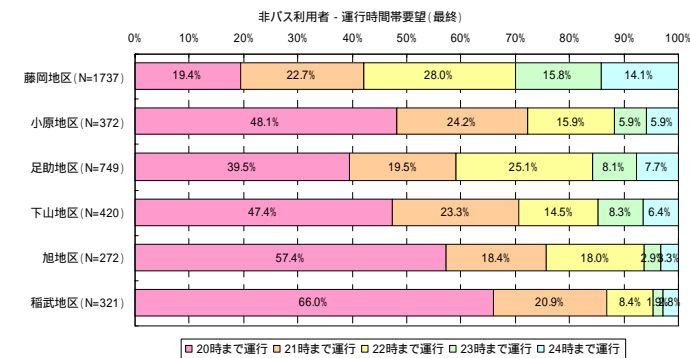
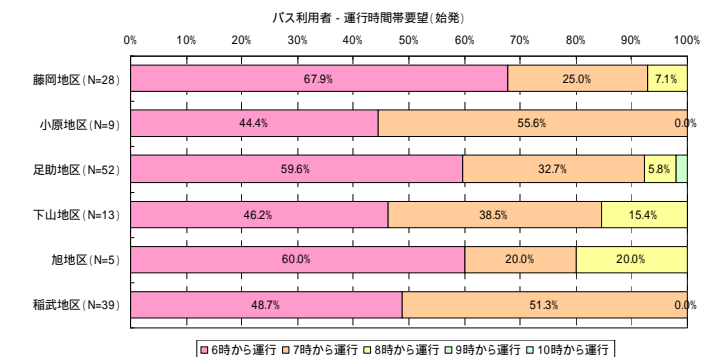
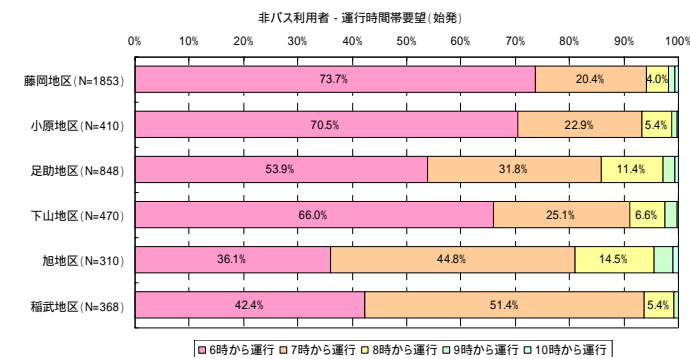
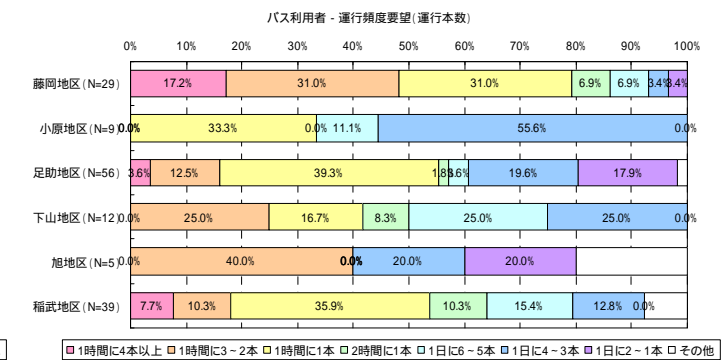
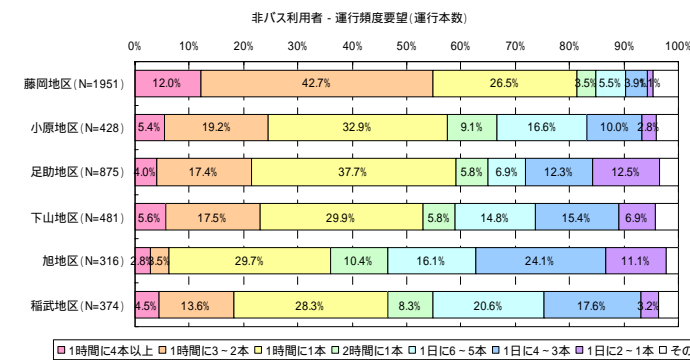
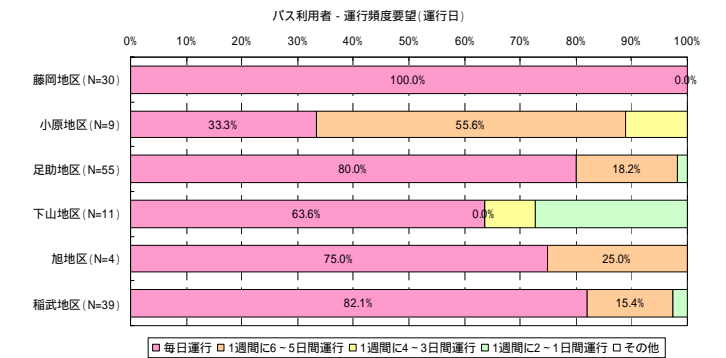
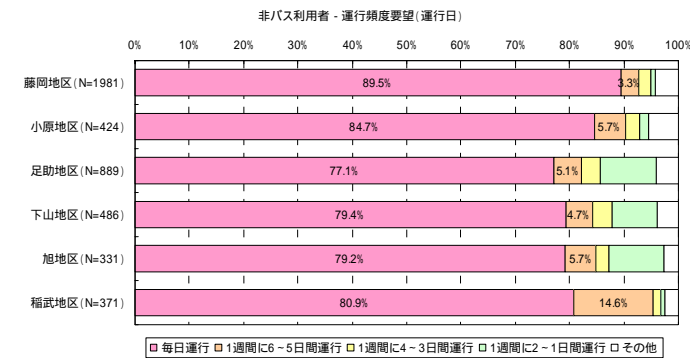
- 現在のバス利用の有無に関わらず、ほぼ毎日の運行を望んでいる。

【運行本数】

- 1時間に1本以上の運行を望むものが半数程度を占めているが、現在バスを利用していないものの方が比較的高いサービスレベルを要望しており、旧町村地域の中でもバス利便性が高い藤岡・足助地区でその傾向が強い。

【運行時間帯】

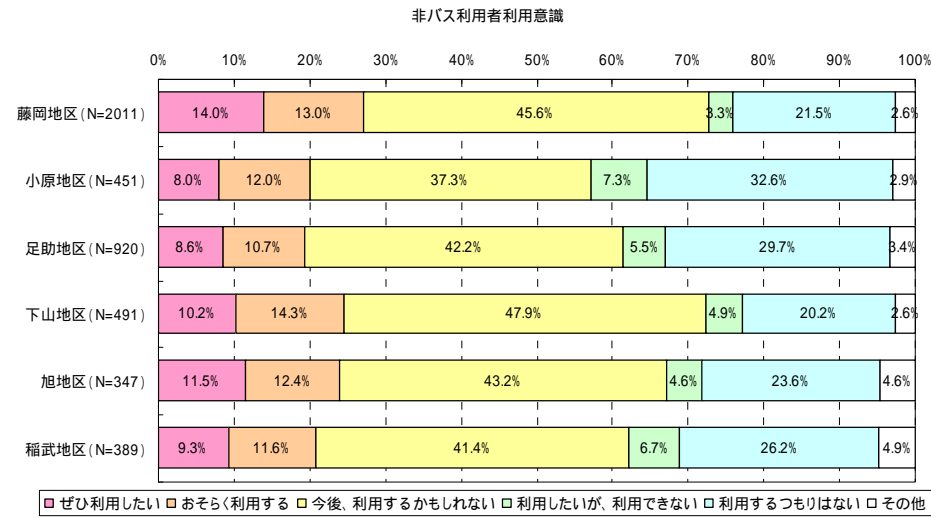
- 始発の時間帯は、90%程度が7時以前を望んでいる。
- 最終の時間帯は20時または21時台を望むのが多いが、旧町村地域の中でも比較的豊田市の中心部への利便の高い藤岡・足助地区の方が、さらに遅い時間帯までの運行を望んでいる割合が高い傾向にある。



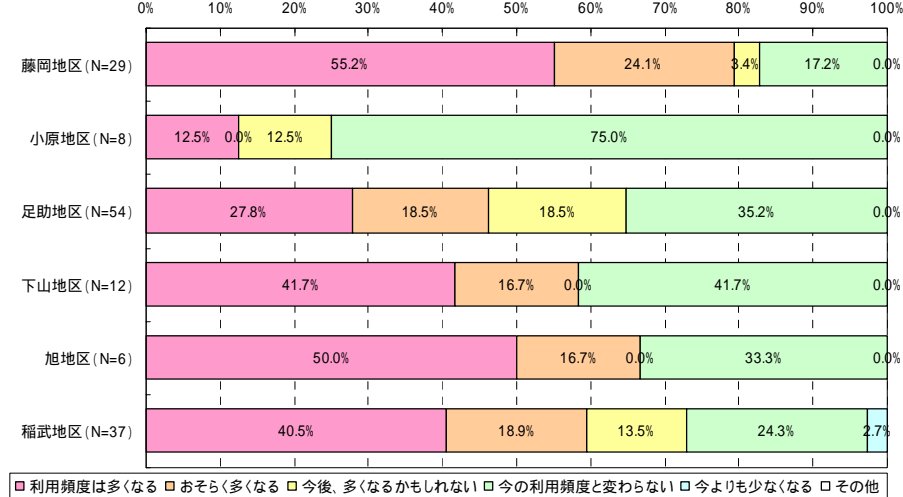
バスの利用・非利用者別サービス改善後の利用意向

- 【バスの非利用者 - 転換の可能性】**
- バス利用に転換すると考えられる割合は20%程度である。
 - サービス水準が改善されても、明らかに利用しないものも20~30%の割合を占める。
 - 実際に運行されなければ分からないこともあり、利用の意向が不確定なものの割合が高くなっている。
- 【バスの利用者 - 利用頻度の向上】**
- 現在バスを实际利用しているものにとっては、サービスレベルが向上すればバス利用頻度が高くなるとの意識がある。

バスサービス改善後（仮想）の利用意向



バス利用者利用意識

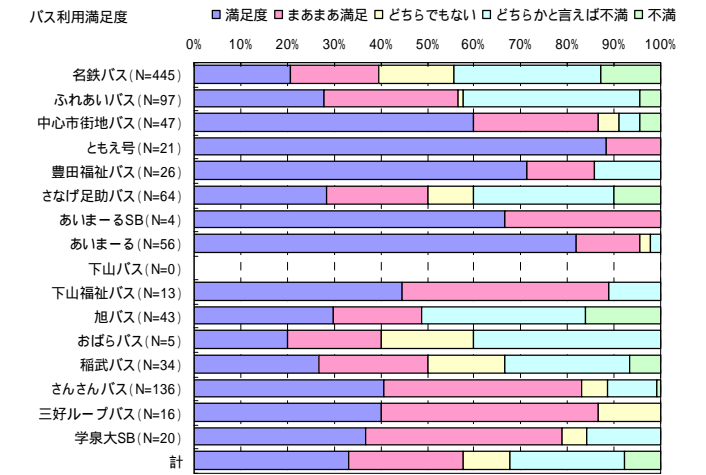


3-4 バス交通に関する利用者意識（バス利用実態アンケート調査から）

現在のバスの満足度

- 交通圏の基幹路線を担う名鉄バスやさなげ足助バスは、満足・不満の割合が同程度となっている。
- 都心部の公共施設を結ぶ短距離路線の中心市街地バスは満足度が高い。
- ともえ号や豊田福祉バス、あいまーるは、運行日が限定され、本数も少ないものの利用者満足度は極めて高い。
- 旭地区、小原地区の地域バスの満足度が他の地域バスと比べて満足度が低い。

バス利用者の満足度



現在のバスの改善要望

- 全体的に運行本数や運行時間帯のサービスレベルの改善を望む割合が高い。
- 都市部の名鉄バスでは、バスの遅れの改善要望が高い。
- 旭バス、小原バスについては運賃の改善要望が高い。
- 比較的サービスレベルが高く、ワンコイン運賃の路線は運賃の不満は無い。
- 福祉バスやあいまーるなどでは、特にバス停の改善要望が高い。
- 地域を巡回するふれあいバスでは運行ルート改善要望も比較的高い。

バス利用者の現在のバスの改善要望

